

令和 5 年度 事業報告書

社会福祉法人 まほろば福祉会

目 次

○ 法 人 本 部	· · · · ·	1
○ ワークステーションやじろべえ	· · · · ·	3
○ 障害者支援施設 翼	· · · · ·	9
○ さくら さくら	· · · · ·	16
○ 天領の杜・ひらり	· · · · ·	31
○ 相談サポートまほろば	· · · · ·	38
○ 地 域 支 援 局	· · · · ·	40

令和5年度法人本部事業報告書（案）

I 事業概要

1. 第16期役員任期満了により6月に役員改選を行い、全理事・監事の第17期役員の再任が承認された。
2. ほっとすてーしょん翼建替え工事及びさくら館改修工事は、事故等もなく無事3月に工事が完了した。
3. 令和3年5月に法人創立30年を迎える、東諸県拠点ひらりの大規模改修、ほっとすてーしょん翼の建替え工事、さくら館の改修工事と大きく事業を展開してきた。これからの新しい時代のスタートとして法人ロゴマークを新たに作成した。
4. 業務継続計画について、作成や計画内容の更新に要する労力の軽減、また、実用性のある計画にしていくためにCloudBCP（株）のシステムを導入し、法人内全ての事業所で業務継続計画の策定を行った。
5. 理事会6回、評議員会4回開催した。（書面審議含む）

II 事業の状況

1 事業進捗状況

（1） ほっとすてーしょん翼建替え工事

令和5年1月に着工した工事も10月に第1期工事完了、3月に建物のすべてが完成した。旧施設での問題であった居住、共有スペースの狭隘が解消され、また、大規模災害時の備えが完備され、利用者の方々に安心して過ごして頂ける施設が完成した。

（2） 法人独自の福祉サービスの創出

宮崎県特別支援教育課より相談を受け、医療的ケアの必要な児童の通学支援について前年度より検討を行ってきた。結果、宮崎県において事業計画を整備した上で、再度実施について検討することとなった。その中で、現に通学手段に困っている方（医療的ケアなし）の通学支援の依頼があり、さくら館と地域支援局で1年間支援を行った。

（3） 人事・労務管理システム導入

クラウド人事労務ソフトSmartHRを導入した。給与明細の電子化による担当者の時間の創出とペーパーレス化が図れた。今後はソフトの機能を充分に活用できるように各事業所の担当者を育成していく。ソフト導入の目的は、効率化によって創出できた時間をより利用者の方に満足して頂けるために活用することや新しい業務への時間の創出である。費用対効果を検証し、ソフトの継続や他社のソフトについても研究、検討していく。

（4） 人材確保とキャリアパス制度の導入

令和5年度採用試験を実施し、令和6年4月から3名を採用とした。

キャリアパス制度については、職務分掌表の見直しを行った。今年度は、全体研修と新人職員研修のみにとどまったが、次年度は階層別研修を計画し実施していく。

III 職員研修関係

- 新人職員研修（入社時研修・事業所間交流研修・振り返り研修）
- 法人職員全体研修（講師：鬼島善郎初代理事長）
- ケアテックス福岡

IV 行事関係

- 永年勤続表彰（7名）
- 秋の花火ショー

V 決算状況（別添決算書参照）

令和5年度 やじろべえ事業報告書（案）

I. 事業の概要

1. 「障がいのある方の『働く・くらす』をサポートする」体制を構築して2年が経過し、ワークステーションやじろべえ、ヘルパーステーションやじろべえ、Yumeハウスやじろべえ間の連携も順調に運びだした。
12月にはヘルパーステーションやじろべえにおいて同行援護事業の指定を新たに受け、さらに利用者のニーズに即した支援が行えるようになった。
2. 就労継続支援B型事業の新規利用者は10名であったが、生活介護事業所への転籍者が1名、高齢による退所者が1名となった。また、新規利用者10名のうち4名がやじろべえの作業に適合せず退所となった。
3. 就労支援においては、工賃アップを最大の目標に掲げ利用者・職員が一体となって取り組み、就労支援事業の売り上げは前年度と比較すると500万円ほど増えた。
平均工賃月額も算定方法が変更になったことも大きな要因であるが、前年度と比較し約6,000円増の28,295円となった。
4. 設備整備関係では、懸念材料であった21万km以上走行した送迎車両の入れ替えをリースにて実行し、さらに日本財団の福祉車両助成によって1台増車することができた。
このことによって、安心安全な送迎サービスを行えるようになった。
5. BCP（業務継続計画）関連では、「Cloud BCP」との契約により、自然災害及び感染症のBCPを作成することができた。

II. 事業の状況

1. 就労継続支援B型事業

(1) 事業実績

	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	40人	40人	40人	40人
登録利用者数	52人	45人	43人	49人
開所日数	265日	265日	253日	259日
一日平均利用者数	40人	34.0人	34.2人	36.2人
利用者延べ人数	10,680人	9,001人	8,654人	9,382人
介護給付費収入 (利用者負担金含む)	78,000,000円	73,744,750円	70,285,170円	75,828,420円
工賃支給総額	12,000,000円	11,532,824円	10,984,295円	11,677,170円

就労支援 収入	印 刷	27,400,000 円	28,483,315 円	23,781,736 円	22,815,809 円
	請 負	5,000,000 円	4,326,659 円	3,553,575 円	1,458,946 円
平均工賃月額		23,000 円	28,295 円	22,013 円	21,826 円

(2) 事業成果と課題

① 昨年度と比較して一日平均利用者数が0.2人減となったが、これは祝日営業12日のほかに土曜営業を11日実施したことが要因である。登録利用者数は4名増の45名となった。引き続き相談支援事業所や市社会福祉課等との連携を図り、新規利用者の獲得に努めていく。

定員	期首	新規契約	退 所					期末
			就職	高齢化等	入院	他所	その他	
40人	41人	10人	0人	1人	0人	1人	4人	45人

② 平均工賃については、計算方法が「月ごとの工賃支払額の総額÷月ごとの工賃支払対象者の総数」から、「年間工賃支払総額÷(年間延べ利用者数÷年間開所日数)÷12か月」に変更となり28,295円となった。【参考…旧計算22,481円】

③ 一般印刷及びアパレル印刷では、全国身障協「SAVE NOTO！ Tシャツ支援プロジェクト」への参加により売上を伸ばすことができた。受注件数も前年度と比較すると、一般印刷が445件から497件(112%)、アパレル印刷が270件から295件(109%)、SAVE NOTO！が80件と順調に伸びている。しかし、度重なる原材料等高騰の影響が大きく、高騰分を顧客へ転嫁することが難しいため、経費節減や利益率を減少させるようなミス削減への取り組みがとても重要となってきた。



オフセット印刷機(排紙部)



オフセット印刷機(給紙部)



「レーザー彫刻機」



オンデマンド印刷機



シルク印刷機

④ 軽作業については、株兼重青果の千切り大根の選別・袋詰め作業の他、新たな作業としてニホンバイオフーズ製造(株)からの請負業務を受注することができた。



アミノサプリ 箱詰【新規】



リンガーハット除草作業



千切り大根 検品・シーラー

- ⑤ 全国身障協「SAVE NOTO！Tシャツ支援プロジェクト」は、最初の施設の創立から50周年を迎えた身障協が、ケアコミュニティの理念で取り組む能登半島地震の被災施設を支えるプロジェクトで、支援Tシャツ、ポロシャツ、ストレッチジャケットを販売し、一枚に付き700円を被災された障害者支援施設等の復旧支援金として送る事業で、やじろべえにおいてプリント及び発送業務等を一手に受けている。令和6年2月中旬からスタートし、3月末までの納品枚数が1,788枚、支援金が1,251,600円、やじろべえの売上金が4,205,300円となった。



2. 居宅介護事業・同行援護事業・外出介護事業・シェアハウス（Yumeハウス）

(1) 事業実績

居宅介護事業	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値		
登録利用者数	10人	9人	9人	9人
介護給付費収入 (利用者負担含む)	45,300,000円	59,058,020円	46,375,378円	37,291,400円

同行援護事業	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値		
登録利用者数	－	1人	－	－
介護給付費収入 (利用者負担含む)	－	13,660円	－	－

外出介護事業	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	—	8人	8人	5人
受託事業収入	—	112,020円	163,370円	248,370円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護事業は、特定事業所加算Ⅱを取得したことによって、前年比 127%の 59,058,020円となった。
- ② 1名の利用者からのニーズを受けて、12月に同行援護事業のサービス提供を開始した。
- ③ Yumeハウスやじろべえでは、障害の重度化によって天領の杜(日中はひらり)へ転居されたが、相談サポートまほろば及び天領の杜との連携により空床を防ぐことができた。
- ④ 今後の課題として、体調不良による入院等を防ぐために利用者の健康管理に十分注意した支援を行っていくことと、ヘルパーの高齢化及び人手不足が深刻な問題であるため、人材確保が挙げられる。

III. 感染症対策

1. インフルエンザワクチン接種については、希望する利用者・職員に対し 10月に実施（嘱託医）し、新型コロナワイルスワクチン接種については、希望する利用者・職員に令和5年6月と10月の計2回実施（嘱託医及びかかりつけ医）した。
2. 新型コロナウイルス感染症関連では、職員3名、利用者4名が罹患し、2次感染は利用者から職員への1件のみであった。日頃から感染症対策を徹底して行ってきたことにより今年度も3次感染を防ぐことができた。
3. やじろべえには看護師がいないため、翼看護師の協力を得て感染症研修を 10 月に実施した。



IV. 非常災害対策

1. 地域住民や地元消防団等の協力が得られやすいよう自治会への加入を継続し、近隣住民とも良好な関係を築いてきた。
2. 総合防災訓練や火災、地震、水害による避難訓練、AED操作などについては年間計画に基づいて実施した。また、新たな試みとしてNTTの「災害時伝言ダイヤル」の活用術について説明を行った。



避難訓練(点呼)



消防訓練(厨房内)



伝言内容(30秒)

- 名前
「○○○○です」
- 現在地
「被災地の○○○にいます」
- 誰と一緒に
「○○と一緒に避難します」
- 安否
「無事です」
- 次の伝言時間
「次は○時に伝言を残します」

メモ

伝災害時伝言ダイヤル

3. B C P(業務継続計画)の策定
が令和6年4月より義務付けられたことから、P Cやスマホ等での入力が可能で、各種訓練機能とB C P発動後の安否確認が行える「Cloud B C P」と契約し、法人全体で統一したB C P作成が可能となつた。今後は、「Cloud B C P」を有効活用させ、リスク回避やダメージの最小化など事業を安定・継続させる取り組みに繋げていきたい。

V. 職員研修関係

1. 介護福祉士等の資格取得者はいなかつたが、今後も職員の資質向上や自己研鑽への支援を継続していく。
2. 事業所内研修では感染症研修のほか、虐待防止及び身体拘束関連の研修を実施した。
3. 事業所外研修は、宮崎県人権講座、サービス管理責任者更新研修、虐待防止研修のほか、全国社会就労センター長研修、宮崎県社会就労センター職員研修Ⅰ・Ⅱ、施設長研修に参加することができた。

VI. 地域貢献活動及び行事関係

やじろべえ祭や地域の諸行事（祭り大塚など）、中学校の職場体験学習の受入れが中止となつたが、地域貢献活動の一環として行っている地域清掃活動や焼肉会・クリスマス会・芋煮会といった行事を行つた。



事業所内清掃活動



地域清掃活動

令和5年度 障害者支援施設 翼 事業報告書（案）

I. 事業の概要

- ほっとすてーしょん翼建替え工事に伴い、サービスを継続しながら安全・円滑に事業移転ができるように計画を進めてきた。利用者やそのご家族、関係者の皆様のご支援・ご協力のおかげで、第1期工事が10月、第2期工事が令和6年3月に無事完了し、4月にグランドオープンを迎える新しい建物での事業運営が開始となった。環境の変化による利用者の心身の不調を懸念していたが、大きな混乱もなくスタートすることができた。
- 設備整備については、利用者の高齢化・重度化及び新築建替えを見据えて、利用者が安心・安全に支援を受けることができ、かつ、職員の介護負担軽減を図るための設備等の検討を重ね、見守りカメラとの連動が可能なナースコールや電動ベッドを導入した。また、非常災害や感染症に対応できるように非常用自家発電を完備し、施設内にオゾン発生器を設置した。
- 権利擁護・虐待防止については、6月に地域支援局と合同で外部講師による研修会を行ったが、一人でも多く参加できるように時間を2部構成にした。また、12月には宮崎市出前講座による研修会を実施した。法人で作成した『接遇マニュアル』について、職員会議等にて職員へ周知を行った。
- 1月に発生した能登半島地震に関して、厚生労働省より社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣要請があり、1月28日から31日までの4日間、石川県金沢市へ職員1名を派遣した。今回の経験を踏まえ、災害時の対策に何が必要なのかを再確認し、非常災害時の事業継続計画に活かしていきたい。

II. 事業の状況

1. 入 所

(1) 事業実績

		令和5年度		令和4年度	令和3年度
		目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員		32名	32名	32名	32名
登録利用者数		—	—	—	—
開所 日数	生活介護	260日	260日	261日	261日
	施設入所支援	366日	366日	365日	365日
一日平均利用者数		31.3名	30.5名	30.8名	31.4名
利用者 延べ人數	生活介護	8,280名	7,957名	8,033名	8,189名
	施設入所支援	11,454名	11,130名	11,229名	11,445名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)		209,900,000円	209,471,665円	209,397,325円	207,413,983円

(2) 事業成果と課題

- ① 入退所状況では、3名の利用者が退所された。退所理由は、手厚い医療的な支援が必要となった方が2名、死去された方が1名であった。また、新たに4名の方が入所された。今後も相談支援事業所をはじめ関係機関への広報活動や連携を図りながら入所希望者の確保に努めていきたい。
- ② 利用実績では、1日平均利用者数30.5名となり前年度より減少した。要因としては、退所後に空床となった期間があったことや延べ入院日数の増加が挙げられる。延べ入院日数については、年々増加傾向にあり、前年度比98日増となった。入院日数を減らすため日頃から利用者の健康管理に努め、リハビリや日中活動等への参加を促し、職員の意識や専門性を高めるための研修を行っていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、利用実績の減少や新規入所利用者の障害支援区分が退所された利用者と比較すると低いこと等から目標値には届かなかった。
- ④ 利用者の満足度を高めるために、施設内で楽しめる行事の実施だけではなく、園外行事やご家族との時間を大切にしてもらうために面会や外出・外泊を再開した。今後も利用者のニーズに応じた魅力あるサービスを実施していきたい。

2. 短期入所

(1) 事業実績

	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	3名	3名	3名	3名
登録利用者数	19名	21名	16名	15名
開所日数	366日	366日	365日	365日
一日平均利用者数	0.6名	0.8名	0.2名	0.3名
利用者延べ人数	216名	289名	105名	122名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)	2,200,000円	2,534,524円	1,062,076円	1,006,982円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者6名と契約することができたため、前年度と比較すると登録利用者数は5名増となり目標値を達成することができた。
- ② 利用実績では、1日平均利用者数と利用者延べ人数共に増加した。要因としては、新規利用者をはじめ定期的に利用される方が増加したことやご家族の入院等のため長期利用された利用者がいたことが挙げられる。入所希望者を確保するためにも、今後も積極的に受け入れを行っていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、前年度と比較すると利用実績の増加に伴い147万円の増収となり、目標値を上回ることができた。

III. 感染症対策

1. 移転したことにより、感染症発生時に対応しやすいエリア分けと動線を確保することができたため、感染症に関する事業継続計画の一部を変更した。また、感染症の陽性者が発生を受けて、事業継続計画の見直しを随時行った。
2. 7月に感染症対策委員会を中心に、手洗いマスターを使用しての手指衛生の研修を行ったが、全体的に洗い残しが多く、改めて手指衛生の大切さを再認識することができた。今後も、感染対策に対する正しい知識（標準予防策・環境整備・発生時の対応）の習得や研修、事業継続計画に沿った訓練を行っていく。
3. 新型コロナウイルス感染症については、9月に利用者5名・職員1名、12月に利用者2名・職員3名、2月に利用者3名、3月に利用者4名が罹患した。また、10月にはインフルエンザA型に利用者1名が罹患した。

IV. 非常災害対策

1. 防火管理者を中心に火災、風水害を想定した避難訓練及び研修を実施した。また、救命救急法や散水栓の訓練には利用者にも参加していただいた。図上訓練、簡易式担架や散水栓の使用方法について実践を交えた訓練をすることで、職員の意識を高めることができた。
2. 移転したことに伴い、防災・防犯設備の設置場所や使用方法が変更となつたため、職員へ周知を行った。

月	内 容	月	内 容
4月	・防災訓練 (火災：夜間想定)	8月	・防災訓練（散水栓）
5月	・避難通路点検及び清掃	10月	・消防用設備点検
6月	・救命救急法 ・簡易式担架での使用方法	2月	・防災訓練（火災：昼間想定） ・消火器の取り扱い
7月	・防災訓練（風水害） ・防犯研修 ・図上訓練		

V. 職員研修関係

1. 職員の資質向上、自己研鑽のための資格取得に向けての研修への参加については勤務調整をする等して支援を行った。
2. 委員会を中心として、障がい者権利擁護・虐待防止研修、感染症対策研修などの研修を実施した。

3. 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、施設外研修の多くが対面形式で実施されるようになった。また、県外で開催される研修にも参加することができた。

VI. 行事関係

月	内 容	月	内 容
4月	・フラワーフェスタ ・焼肉会	10月	・新建物へ引っ越し
5月	・ピクニック	11月	・テイクアウト (お寿司：海舟寿し) ・キッチンカーイベント (おもスイーツ)
6月	・風船バレー大会 ・焼肉会	12月	・クリスマス会
7月	・ラーメン実演（風来軒）	1月	・初詣ドライブ
8月	・焼肉会	2月	・おやつバイキング ・餃子パーティー
9月	・バイキング ・キッチンカーイベント (クレープ)	3月	・お花見会

VII. 決算状況（別紙決算書参照）

令和5年度 さくら館 事業報告書(案)

I. 事業の概要

1. 日本財団補助施設の修繕・改造等を実施した。目的としては、築20年が経過する中で、重度障がい者の受け入れに際し設備の強化と安全性の向上を図った。
2. 利用者の高齢化及び重度化による介護ニーズへの対応として、ストレッチャー式の機械浴と個浴2台（シャワーキャリー対応と自力入浴可）をそれぞれ男女計6台設置。心身ともに快適な入浴を提供できるようになった。
3. 多職種連携室（スタッフステーション）には呼び出しコールを配線し、静養・処置室を設置することで、喀痰吸引等の医療的ケアの必要な利用者の積極的な新規利用者の受け入れを拡大することができた。
4. スタッフステーションがあることで、障がい者の宿泊避難所としての機能を備えることができ、災害時の避難場所として社会資源の創出を図ることが可能となった。
5. 居宅介護においては、在宅生活を続けられていた太田昭三様が令和5年7月に81歳で老衰で亡くなられた。20年間ヘルパー派遣を利用されながら医療機関との連携を図り、意思決定の尊重のうちに最期はターミナルケアで在宅生活に終止符を打った。「生涯、在宅生活を続けたい」と願う強い意志を貫いた人生であった。同じく20年間ヘルパー派遣を利用されていた前田登美春様も在宅生活を望まっていたが、経口摂取が困難な状況になり、自らの意志で施設入所された。

II. 事業の状況

1. 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値
利用定員	20名	20名	20名
登録利用者数	40名	37名	38名
開所日数	256日	263日	241日
一日平均利用者数	23.4名	22.4名	24.6名
利用者延べ人数	6,000名	5,900名	5,916名
介護給付費収入	106,600,000円	107,702,210円	104,064,900円
			102,267,900円

2. 事業の成果と課題

- (1) 退所された方 4 名（病気療養後に亡くなられた方、急死の方、他施設へ移行された方）と、新規契約利用者が 4 名（他施設より移行された方、施設併用されている方、特別支援学校卒業生）であった。年間の利用者受入れ人数は 16 名減 5,900 名、営業日数は前年度比 22 日増だった。令和 4 年度 7 月に新型コロナによってクラスター感染となり休館したが、令和 5 年度は土曜営業などで営業日数が増えたとみられる。
- (2) 年間 12 日間の祝日営業を行い、延べ 242 名の受け入れが出来た。
- (3) コロナの影響により行動制限が生じていたが、昨年度 5 月より 5 類に移行されたことにより、園外活動などの外出の機会が増えたことで喜びの声が多く聞かれた。
- (4) リハビリの需要に対応し、理学療法士はもとより、週に 1 回の言語聴覚士の登用により、言葉によるコミュニケーションや嚥下の状態などを動画にてリハビリのプログラムの実施、評価し、専門職以外のスタッフでも共通理解し効果を得ることができた。
- (5) 嘱託医を内科医登用により、医療的、専門的な領域の健康相談を通じて、コロナ、インフル対策として看護師と連携が図れ、タミフル備蓄の対応や指導を受けることができた。
- (6) 6 つの委員会（サービス向上・虐待防止・医療連携・給食・送迎・身体拘束）の定期的な会議や報告などで、サービスの向上や事故防止に努めた。送迎については、今年度も、車両事故 0 を達成した（5 年継続）
- (7) さくら館を知るための 3 つのプロジェクトチーム（送迎・入浴・給食）を立ち上げ、全職員でチーム編成を行い、知識・価値・技術を身につけていくことを目的としてマニュアル作りを行った。
- (8) 新規利用者の獲得については、特別支援学校の実習や見学などの受け入れを積極的に行つた。医療行為（経管栄養、インスリン、胃ろう、褥瘡処置、与薬）が多くなっている事から、2 名の常勤の看護師を加え、非常勤看護師を 1 名増やし 2 名を含めた合計 4 名体制で、医療ケアの充実を図る体制を整えた。

III. 居宅介護事業

1. 事業の実績

【居宅介護】

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
登録利用者数	13 名	15 名	13 名
介護給付費収入	102,643,550 円	111,679,330 円	98,667,790 円

【重度訪問介護】

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録利用者数	2名	2名	2名
介護給付費収入	18,804,370円	23,619,470	23,388,840円

【外出介護】

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録利用者数	12名	14名	14名
介護給付費収入	2,011,530円	2,506,854円	2,467,444円

【同行援護】

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録利用者数	1名	1名	1名
介護給付費収入	524,520円	420,160円	465,000円

【訪問介護】

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録利用者数	2名	2名	2名
介護給付費収入	2,912,330円	3,999,290円	4,240,505円

【居宅介護総合】

	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	14名	14名	16名	17名
介護給付費収入	136,200,000円	126,896,300円	142,225,104円	129,968,850円

2. 事業の成果と課題

- (1) 令和4年10月にシェアハウスあさがおを増築、定員を1名増員し4名定員となつたが、1名（山本様）が急死したため現在1空室となっている。又、シェアハウスくろーばーは令和6年1月に1室増築工事を行い、4名定員を5名定員とし、3月に特別支援学校生（嶋本様）を卒業後に新規受け入れた。シェアハウス利用者は計12名となった。
- (2) 専任の登録ヘルパーの新規採用が0名だった。現在、実働11名の登録ヘルパーである。3名が60歳を超えており、人材確保が課題となっている。人手不足解消として、生活介護支援員、看護師、理学療法士、事務員での兼務派遣体制を整えている。完全な兼務派遣をすることで年間430万円の人件費削減ができている。
- (3) シェアハウス利用者間の対人関係は良好で、退去者は0名であった。又、特別支援学校のPTAの方などの見学も多く含め、シェアハウスのニーズは高まっている。

- (4) ヘルパーミーティングやシェアハウス支援者会議を定期的に行い、積極的にSNS等も取り入れ、タイムリーな情報の発信、受信、情報の共有に努めた。
- (5) シェアハウスの利用者の方の中にはインスリン注射の対応が必須で、今後も、かかりつけ医や訪問看護との連携を密に行っていきたい。

IV. 感染症対策

1. 新型コロナウイルス関連では職員が8名、ヘルパーが1名、利用者が5名罹患し、2次感染は職員から利用者の1件、それ以外は家庭内感染であった。インフルエンザA型に職員が2名、利用者が2名罹患した。感染毎に隔離等で感染拡大を防ぐことができた。
2. 新型コロナワクチン接種については、令和5年5月に5類へ移行したことで、それぞれのかかりつけ医で接種を推奨した。インフルエンザワクチン接種については、嘱託医より希望する利用者、職員に対し12月に接種を実施した。
3. 感染症研修としては、防災担当者に看護師が加わり、2月に手洗い、うがいの重要性と日頃からの感染予防についての講話を交えながら実演を行った。

V. 非常災害対策

1. 防火管理者を中心に、飛鳥防災システム（有）からのご協力を得ながら、火災、風水害を想定した避難訓練及び研修を実施した。1月には宮崎市消防局南部消防署中部出張所と消防士による起震車体験を利用者、ヘルパー、職員と共に自身の類似体験を通して、日ごろからの防災意識を高めることができ、いざというときに命を守る行動ができるように意識づけすることができた。
2. BCP（業務継続計画）については、CloudBCP（株）との契約により、法人内全ての事業所においてシステムを導入することで緊急時の対応や安否確認など統一化が図れた。今後、このシステムを有効活用しながら研修内でも生かしていきたい。

VI. 年間報告一覧表

1. 行事・イベント関係
2. 防災訓練関係
3. 職員研修関係

令和5年度 さくら館行事・イベント関係

4月16日 4月25日	クレイトンハウス、スシロー、すたみな太郎	10月14日 10月20日	土曜営業（手巻き寿司） 運動会
5月22日	一番街・若草通り	11月16日	道の駅「えびの」
6月27日	科学技術館	12月2日 12月22日	土曜営業「手作りハンバーガー」 忘年会
7月19日 7月29日	キッチンカー「くろまる」 土曜営業（たこ焼きパーティー）	令和6年 1月4／5日 1月27日	初詣(一ツ葉稻荷神社、八幡神社) 鍋料理
8月25日	プール遊び	2月14日	石崎の杜温泉
9月23日 9月29日	土曜営業（餃子パーティー） 十五夜祭	3月29日	バーベキュー

令和5年度 防災訓練関係

4月17日	ビデオ講習会	10月19日	避難訓練（飛鳥防災）
5月24日	防災訓練（飛鳥防災）	11月10日	防火対策動画鑑賞
6月15日	防災講話	12月14日	乾燥による火事のリスク
7月12日	台風・大雨等によるクイズ	1月17日	起震車体験（中部出張所より）
8月23日	火災による講話	2月22日	感染症対策についての講話
9月1日	防災食体験	3月11日	巨大地震の動画鑑賞

令和5年度 研修受講状況

5月25,26日 9月8日 1月24日	福祉職員スタートアップ研修（塩月）
6月28日 9月27日	チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編1（関） チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編2（図師） 障がい者支援のためのコミュニケーション研修（図師）
10月3,4日 10月19,20日 10月17,18日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース3（長友） 福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース4（落合） 福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 中堅職員コース4（山下）
11月2日 11月28,29日	利用者主体支援研修 高齢・障がい編（糸木） 福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース5（黒木）
12月4日	障がい者虐待防止・権利擁護研修（山下）
5月25,26日 9月8日 1月24日	福祉職員スタートアップ研修（塩月）
2月14日 2月24日	財務管理研修（本崎） 訪問介護研修（松浦）

令和5年度 天領の杜・ひらり事業報告書（案）

I. 事業の概要

- 生活介護の移転より1年が経過し、職員配置の体制や居宅介護での動きに慣れないところもあったが、都度、話し合いながら業務を進めていくことが出来た。また「日中の場と住まいの場」に分かれたことで、メリハリのある生活が送れるようになった。
- 移転により、新規利用者の受け入れが可能になったことで、生活介護事業は2,037万円の増収となったが、居宅介護、重度訪問介護、訪問介護事業については、福祉ホーム、有料老人ホームの空床が続いたことで1,112万円の減収となった。
- 9月に有料老人ホームみんなの家ともしひが宮崎県指導監査・援護課による実地指導を初めて受検した。身体拘束等の適正化のための委員会が開催されていないと指導があり、改善報告として3ヶ月ごとに委員会を開催し対策をするとともに、職員への周知徹底を図った。

II. 事業の状況

1. 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
利用者定員	20名	20名	20名	20名
登録利用者数	35名	30名	27名	24名
開所日数	267日	267日	256日	263日
一日平均利用者数	19.7名	20.5名	16.3名	15.9名
利用者延べ人数	5,460名	5,462名	4,177名	4,197名
介護給付費収入 (利用者負担含)	83,289,000円	85,541,453円	65,163,610円	63,304,670円

(2) 事業成果と課題

- 介護給付費収入が20,377,843円の増収であった。新規利用者は、7名を受け入れることが出来、4年度実績より開所日数が11日、平均利用者数が4.2名、延べ人数が1,285名と上回ることが出来た。2名の退所者もおられたが、引き続き利用継続と新規利用者の獲得に努めたい。
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後は園外活動も実施出来るようになり、利用者の皆さまの笑顔も見られるようになった。利用者増に伴い、実施の仕方を検討しながら、月に1回以上実施することが出来た。また、毎月の利用者ミーティングを行い利用者の意見に沿って活動の計画を反映することが出来た。
- 入浴を毎日実施することで、日中活動の時間を設けることが出来るようになり、参加する利用者も少しずつ増え充実した時間を過ごせるようになった。
- リハビリ機器が充実したことで計画に沿ったリハビリを実施し、個別ニーズに対応することが出来たが、作業療法的な訓練は継続的して行うことが出来なかつたので、曜日ごとに計画

を立て実施していきたい。

5. 職員の療養休暇中には、さくら館より3ヶ月間の長期にわたりヘルプ職員の手配と翼より入浴介助のヘルプに来ていただき、利用者の皆さんにご迷惑おかけすることなく業務を行うことが出来た。

2. 居宅介護等事業

(1) 事業実績

・居宅介護

	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
登録利用者数	—	12名	11名	11名
介護給付費収入(利用者負担含む)	97,248,000円	99,039,700円	91,931,720円	83,252,610円

・重度訪問介護

	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
登録利用者数	—	0名	2名	2名
介護給付費収入(利用者負担含む)	11,400,000円	0円	16,006,680円	23,410,320円

・訪問介護

	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
登録利用者数	—	8名	10名	9名
介護給付費収入(利用者負担含む)	24,516,000円	19,275,750円	21,462,360円	19,275,550円

・外出介護

	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
登録利用者数	—	13名	13名	14名
介護給付費収入(利用者負担含む)	—	3,044,500円	3,082,500円	2,695,360円

(2) 事業成果と課題

1. 居宅介護については、数値目標を達成することができ1,791,700円の増収ではあったが、重度訪問介護の利用者が0であったため減収となった。
2. 訪問介護については、退所者が3名（ともしび、天領）おられた。1月より1名入居者されたが、空床の期間が長くあり、目標を達成することが出来なかった。
3. 外出介護については新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行になり、外出の頻度が多くなってきたが、前年度実績を上回ることが出来なかった。外出介護の支援が出来るヘルパーが不足しており、職員で調整し実施した。
4. 新規ヘルパーは2名の採用があったが、引き続き兼務職員による派遣にて利用者支援を行った。

3. 福祉ホーム（天領の杜・喜楽家）

（1）事業成果と課題

1. 天領の杜ホームの空床が昨年度より続いており、8月にも入院により退去された方がおられ3床の空き状態が続いたが、年度内に満床となった。
2. 喜楽家の入居者が療養型へ移行のため10月末に退去となつたため、1床空いている状態である。
3. 感染症については、7月に新型コロナウイルスに感染された方が2名、9月にインフルエンザに感染された方が1名おられた。入院者は2名であった。
訪問看護が入り、かかりつけ医との連携もスムーズになったことから、今後も体調不良時は速やかな受診の対応に努めていきたい。
4. 新規入居者の確保については、相談支援事業所と連携していく。
5. 生活介護が移転したことで、生活介護を利用されていない入居者に対し、待機職員の配置が必要となつた。また、職員の療養休暇等もあり職員体制に余裕が見られなかつた。

4. 有料老人ホーム（みんなの家ともしび）

（1）事業成果と課題

1. 5月に1名の看取りを行つた。家族、訪問看護、医師、ケアマネ、職員と連携を図り最期までともしびにて過ごしていただいた。初めてのことだったため、いろいろと課題もあり、今後に繋げられるようにしたい。10月に1名退去（介護老人保健施設）され、1月に1名入居された。
2. 2名の方が、新型コロナウイルスに感染されたが、感染対策を行い、他に感染者は見られなかつた。1名の方が酸素低下し救急搬送にて入院となつたが、回復し帰所された。
3. 普段より自操にて散歩に出かけられ、所在不明になることがある入居者の方に対し、家族、ケアマネと相談しGPSを導入し所在の確認が出来るようにした。
4. 課題として、外部のデイサービス利用以外の日中の活動時間をつくり、創作活動や口腔体操など実施し、生活の質の向上に努めるとともに、週に1回、理学療法士によるリハビリの時間を設け、機能維持に努めていきたい。

III. 感染症対策

- ・ 新型コロナウイルスに職員が4名、利用者が5名の感染があつた。感染が確認される度に感染対策を行い、他者への感染を防ぐことが出来た。

IV. 非常災害対策

- ・ 台風6号の際は、入居者17名がひらりに避難を行つた。生活介護の営業を開始したこともあり、備品類も揃つておらず、安心して過ごすことが出来た。また厨房の設備も使用でき厨房職員が調理を行い、食事に困ることなく過ごすことが出来た。台風の進みが遅く、翌日には河川氾濫警報も出ておりホームに戻ることが出来ず、2泊することとなつた。停電はなく、体調不良者もおられなかつた。

V. 職員研修関係

4月		10月	
5月	タイムマネジメント研修	11月	利用者主体研修 タイムマネジメント研修
6月	コーチング研修	12月	介護職の為の薬の知識研修
7月	マニュアル作成研修 問題解決能力スキルアップ研修	1月	虐待防止・権利擁護研修
8月	BCP研修 看取り研修 口腔ケア研修	2月	災害対応力研修
9月		3月	虐待防止研修 感染症対策研修

VI. 行事関係

4月	バーベキュー 消防点検	10月	ハロウィン 運動会 山下清展
5月	イオン 避難訓練	11月	イオン 風来軒キッチンカー 地震避難訓練
6月	酒泉の杜	12月	クリスマス会
7月	夏祭り（8月に延期）	1月	初詣 酒泉の杜
8月	レトロ to ミライ展 AED操作訓練	2月	ラウンドワン ソフトバンクキャンプ 消防点検
9月	ボウリング＆アミュプラザ	3月	雛山散策 出張お寿司（海舟寿司） 花見（雨天のため延期）

VII. 決算状況（別添決算書参照）

相談サポートまほろば事業報告書（案）

I 事業の概要

1. 3年計画にて毎年24名の利用者獲得を目標とし令和5年度から取り組み、24名の新規利用者獲得ができた。
2. 障がい児の相談が基幹センターである宮崎市総合発達支援センター「おおぞら」や宮崎市障がい者総合サポートセンターからの依頼が増え、令和5年度は新規障害者契約数11名に対し、新規障害児15名と児童の契約数が伸びた。
3. 利用者満足度の向上と、相談支援への満足度を確認することができるよう、全利用者の計画書に「相談支援」の支援項目を計画更新時に順次加え、より良いサービス等利用計画書を作成することができた。

II 事業の状況

(1)事業実績

	令和5年度 目標値	令和5年度 実績値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値
登録者人数	192名	193名	177名	234名
計画作成件数	175件	175件	166件	192件
モニタリング件数	444件	419件	477件	531件
サービス提供時モニタリング件数	230件	146件	269件	214件
給付費	10,126,000円	10,272,470円	9,064,380円	12,447,680円

(2)事業成果と課題

1. 令和5年度の新規利用者獲得目標数は達成できた。今後も少しでも早く令和3年度以上の契約者数(234名)の確保に努め、利用者の視点で相談資質の向上を図っていきたい。
2. 「サービス提供時モニタリング」については各相談員が、毎月6件以上を目標にしていたが、前年に比べ減少、新規受け入れでのアセスメントや連絡調整などでモニタリング作成がおろそかになってしまった。今後は継続し請求・記録漏れのないように注意したい。
3. 宮崎市避難行動要支援者個別避難計画作成と並行して、障がい者独居世帯など支援の必要な世帯については、サービス等利用計画の中に災害時の対応について記載し、関係機関にも周知を図り協力・連絡体制を構築したい。

III 感染対策

相談支援事業は、他の事業所や個人宅を訪問して行う事業であるので、感染対策には万全を期して行っていく必要がある。今後も法人事務局が奨励する対応を適切に遵守し感染対策を行う。

IV 非常災害対策

相談支援事業所の独自の避難訓練等の実施はなく、地域支援局が実施する避難訓練や人命救助訓練に参加している。

V 職員研修

宮崎市障がい者基幹相談支援センターや、自立支援協議会の各部会が開催する各種研修会へ参加している。

VI 自立生活援助事業について

2名の利用者は前所長に引継ぎ、1名の利用者への支援を継続している。今後も利用者が地域で安心して自立した生活ができるように支援を継続していきたい。

VII 決算状況（別添決算書参照）

令和5年度地域支援局事業報告書（案）

I 事業の概要

- 10月中旬より新施設の入所食堂へ移転し、営業を行った。環境が変わることで戸惑う利用の方々もおられたが、新しい翼の開所に皆さん喜ばれていた。3月中旬に通所棟が完成し、3月25日より新施設での営業を開始した。利用の方々も通所棟の完成を心待ちにされており、皆で完成を喜んだ。
- 8月下旬より清武せいりゅう支援学校に通学する男性1名がBE・FREEに入居された。高等学校卒業までの半年間、日常の支援の他、通学支援を地域支援局一体となって取組み、無事3月に卒業を迎えることができた。また、卒業式の日には、ささやかながらお母様も招待し、卒業祝いの会を開き皆で卒業を喜んだ。
- 4月より宮崎県特別支援教育課の相談により、通学手段に困っている清武せいりゅう支援学校の女子生徒1名の朝の通学支援をさくら館と合同で1年間取り組んだ。もともとは医療的ケアの必要な障害児の通学支援について相談を受けていたが、宮崎県の事業計画が未整備ということもあり事業実施は延期された。
- 利用者の方への安全・安心な支援と職員の介護負担の軽減を目的として介護ロボットHugを導入した。導入にあたっては、宮崎県介護ロボット導入支援事業の補助金（60万円）を活用した。

II 事業の状況

1. 生活介護、地域密着型通所介護

(1) 事業実績

【生活介護】

	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	20名	20名	20名	20名
登録利用者数	28名	33名	28名	29名
開所日数	270日	270日	265日	259日
一日平均利用者数	19.8名	18.5名	18.4名	19.1名
利用者延べ人数	5,300名	4,990名	4,885名	4,962名
介護給付費収入	83,000,000円	79,652,028円	77,465,917円	78,602,835円

【地域密着型通所介護】

	令和5年度		令和4年度	令和3年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	10名	10名	10名	10名
登録利用者数	8名	5名	8名	8名
開所日数	258日	257日	258日	248日
一日平均利用者数	5.8名	4.6名	6.1名	5.6名
利用者延べ人数	1,500名	1200名	1,598名	1,391名
介護給付費収入	6,800,000円	6,751,053円	8,911,620円	7,568,350円

(2) 事業成果と課題

- ① 生活介護事業は、前年度と同程度の実績となり目標値には届かなかった。新規利用契

約目標の 5 名に対し、8 名の新規利用者との契約を行った。下半期に利用実績が上りはじめ、2月、3月は 1 日平均が 20 名を超えており、次年度にかけてもこの状況を維持しつつ新規利用者の獲得に努める。

退所者は 4 名で、2 名は 4 月のひらり開所の際にひらり利用へ変更され、1 名はさくらに変更、1 名は他事業所へ変更したことによる退所となった。

② 地域密着型通所介護事業は障害福祉サービスからの移行者は無く、新規利用者はいなかった。退所者は 2 名で 1 名死去、1 名はともしひに入居され退所となった。

2. 居宅介護、訪問介護、BE・FREE、Be Fine

(1) 事業実績

【居宅介護】

	令和 5 年度		令和 4 年度	令和 3 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	18 名	20 名	19 名	19 名
介護給付費収入	105,000,000 円	114,820,110 円	96,844,340 円	93,821,620 円

【重度訪問介護】

	令和 5 年度		令和 4 年度	令和 3 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	4 名	4 名	4 名	4 名
介護給付費収入	33,000,000 円	26,863,730 円	33,765,850 円	26,236,840 円

【同行援護】

	令和 5 年度		令和 4 年度	令和 3 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	1 名	1 名	1 名	2 名
介護給付費収入	1,000,000 円	1,006,800 円	1,098,770 円	1,217,390 円

【外出介護】

	令和 5 年度		令和 4 年度	令和 3 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	17 名	15 名	17 名	19 名
介護給付費収入	2,000,000 円	2,247,130 円	1,518,510 円	1,834,340 円

【訪問介護】

	令和 5 年度		令和 4 年度	令和 3 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	11 名	10 名	11 名	12 名
介護給付費収入	19,500,000 円	18,082,134 円	19,693,377 円	19,900,102 円

(2) 事業成果と課題

① 居宅介護事業全体では、目標値 160,500,000 円に対し、163,019,904 円と目標値をク

リアすることができた。

- ② BE・FREE は空室であった 2 部屋に、8 月、12 月に新たに男性が入居された。しかし、11 月と 12 月に 2 名の方が亡くなり退去となった。また、Be Fine に入居されていた男性 1 名も 11 月に亡くなり、重度訪問介護利用者が 1 名に減少した。
- ③ 夜勤専属の登録ヘルパー 2 名が高齢を理由に退職された。平均年齢が 61 歳で、今後の人才確保も課題である。

III 感染症対策

新型コロナウイルス感染者は、年間で利用者・職員あわせて 10 名未満であった。2 次感染もなくしっかりと感染対策ができた。7 月には入所と合同で感染症対策研修を実施し、基本的な手洗いについて、手指衛生の大切さを再確認した。

IV 非常災害対策

新施設移転に伴い、防火管理者を中心に消防計画等の変更を行った。また、新しい建物の避難経路や備品の管理場所について職員に周知を図ってきた。今後は、有事の際に地域の方々の協力で効率的に避難できるように地域の方々にも防災訓練の参加を依頼し、実施していく。

V 職員研修関係

4 月	新人職員研修、虐待防止研修 防災研修	12 月	虐待防止研修
5 月	新人職員研修、権利擁護研修	通年	宮崎県社会福祉協議会主催研修 職員復命研修
6 月	救命救急研修 虐待防止研修		
7 月	防犯研修、感染症対策研修		
9 月	救急救命研修（ヘルパー）		

VI 行事関係

4 月	お花見、ラグビー観戦、 グループ外出（居宅）、焼肉会	10 月	プチ運動会
5 月	買い物外出（タイヨー）	11 月	ラグビー観戦、キッチンカー、 グループ外出（居宅）、 山下清展
6 月	プチ納涼祭、焼肉会	12 月	クリスマス会、ヘルパー親睦会、 イルミネーションドライブ
7 月	買い物（イオン） グループ外出	1 月	初詣ドライブ
8 月	夕涼み会、焼肉会	2 月	キャンプ＆外食
9 月	キッチンカー（クレープ） 果物狩り、バイキング	3 月	

VII 決算状況（別添決算書参照）